

## 第2部 第3期大多喜町総合戦略

### 概要

第1部の「第2次大多喜町人口ビジョン」では、町の活力維持とバランスの取れた年代別人口構成の実現に向けて、令和42年(2060年)の人口を5,000人とする目標値を掲げました。シミュレーションによると、この人口目標の達成のためには、「(1)若者(進学・就職)世代における転出抑制」「(2)子育て世帯の転入増加」「(3)ミドル・シニア世代の転入増加」の3つを実現することが鍵となります。



**第2部の「第3期大多喜町総合戦略」では、これら3つにターゲットを絞り込み、移住・定住・地域活性化の具体策を位置付けます。**

ターゲット「(1)若者(進学・就職)世代」においては、今後10年間に於いて毎年90人程度の転出超過となることが見込まれています(人口ビジョン・趨勢パターン(現状のまま推移するシミュレーション結果)より)。

この転出超過を、毎年60人程度まで抑えることを目標として、**若者に選ばれる利便性の高い生活環境の形成(まち)**、**若者が根付く地域コミュニティの形成(ひと)**、**多様な雇用の確保(しごと)**を進めていきます。また、町の魅力や取組が学生や若者世代に知られていないことが大きな課題となっていることから、イベント等の機会を捉えつつ、**積極的に情報を発信**していきます。

ターゲット「(2)子育て世帯」においては、現在、推定10世帯前後の転入があるところ、さらに毎年5世帯の転入を加え、15世帯程度の転入を維持する目標値を掲げています。町内の子育て世帯からは、子育て支援・環境が強みだというご意見をいただいている一方、町外の方で「大多喜町が子育てしやすいまちである」というイメージを持つ割合は18%にとどまっています。



こうした状況を踏まえ、目標値の達成に向けて、引き続き本町の**子育て環境・支援を充実**させるとともに、**町外へのプロモーション(広報)**を進めていきます。また、こども本人の視点を大切に、すべてのこどもたちが幸せな状態で生活できる「こどもまんなか社会」の形成を推進していきます。

ターゲット「(3)ミドル・シニア世代」においては、現在およそ60人の転入があるところ、さらに12人の転入を加える目標値となっています。

この達成に向けて、**町の歴史・自然を活かし、ゆとりのある環境のもと「第二の人生」のスタートを切れるまちづくり**を進めていきます。

これら3つのターゲットに対応する取組を進めることで、人口ビジョン目標値の達成を図るとともに、「豊かさと誇りを次の世代へつなぐまち・大多喜」の実現を目指します。

## 1. 総合戦略の概要

### (1) 総合戦略の理念

本町においては、第2期大多喜町総合戦略において、「人口減少問題の克服・持続可能なまちづくり」を実現するという理念のもと、各種施策に取り組んできました。特に、生活様式の変化や価値観の変化を受けて進めてきた官民連携の取組が、町内各地で動き出しつつあります。

一方で、「第2次大多喜町人口ビジョン」において掲載している通り、本町の人口減少は今後も続く見通しとなっており、豊かな自然と歴史や文化の薫り高いまち大多喜を次世代につないでいくためにも、持続可能な地域づくりに取り組む必要があります。

そこで、本戦略の理念を「豊かさと誇りを次の世代へつなぐまち・大多喜」と掲げ、一人ひとりが実感できる豊かさと誇りを磨き上げ、後世へ残していくための戦略を進めていきます。

### (2) 総合戦略のターゲット

「第2次大多喜町人口ビジョン」においては、「若者（進学・就職）世代」「子育て世帯」「ミドル・シニア世代」のそれぞれに対して転入促進・転出抑制の目標値を掲げ、持続可能なまちづくりに向けた人口水準を目指すこととしています。これを踏まえ、本計画においても、この3区分を主なターゲットとして設定します。

### (3) 分野別戦略

これまでの総合戦略においては、「産業を活性化し、働く場を創る」「『住みたい』・『訪れたい』と思う魅力を創る」「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「安心な暮らしを守り続ける」の4つの基本目標を設定し、施策に取り組んできました。

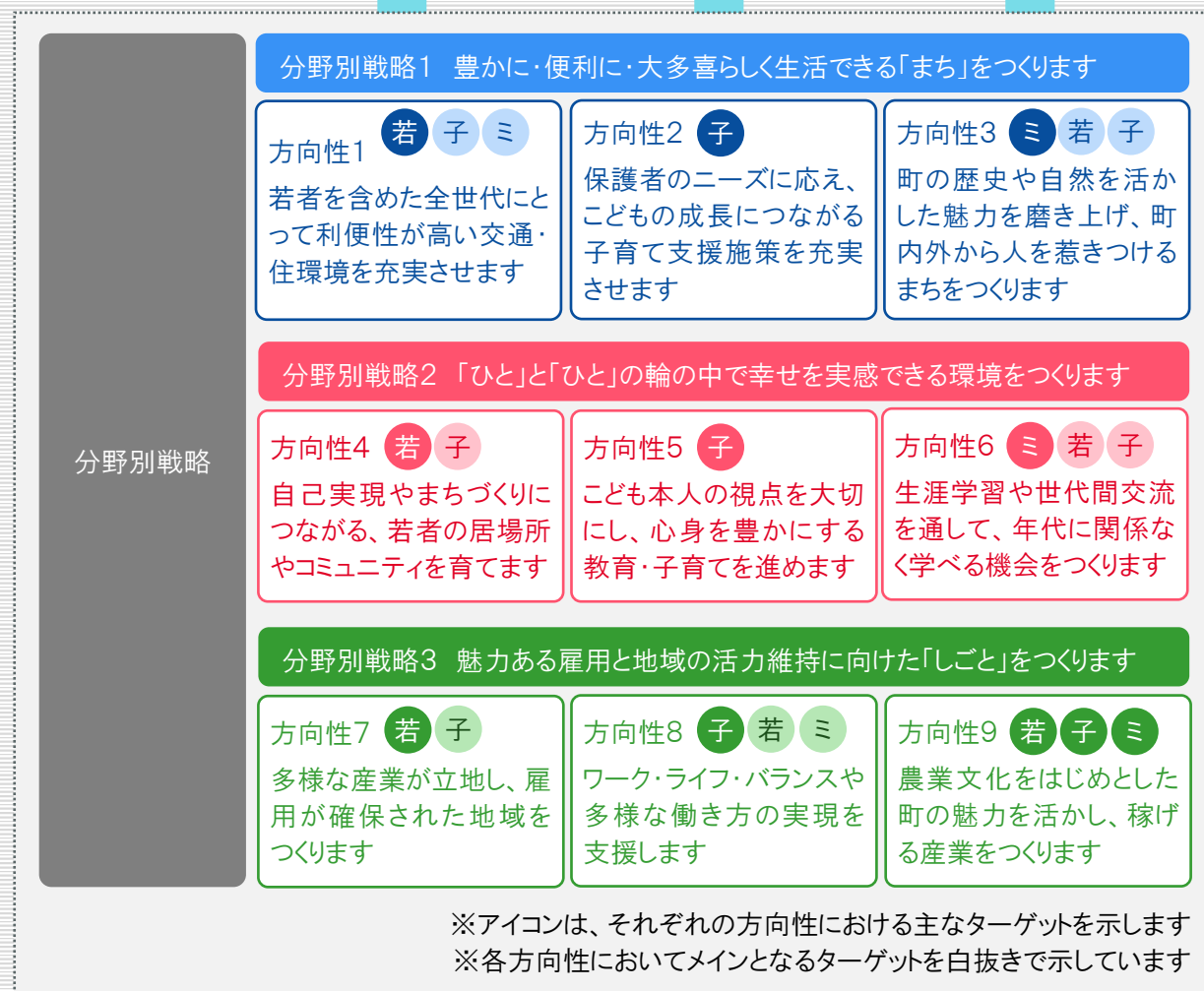
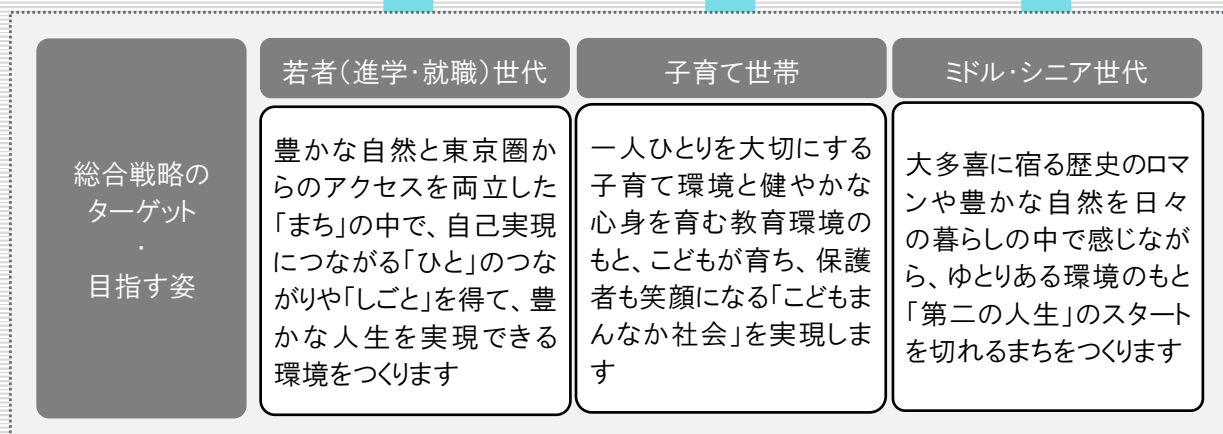
本戦略においては、これらの取組を踏まえつつ、改めて取組の対象として「まち」「ひと」「しごと」に焦点を当てて、各ターゲットにとって魅力的な「まち」「ひと」「しごと」を創出するための、3つの分野別戦略を掲げます。

なお、地方創生2.0の考え方を踏まえた関係人口等の創出に係る取組や、デジタルを活用した生活課題の解決に向けた取組については、各戦略の中に盛り込む形で位置付けます。

分野別戦略1	豊かに・便利に・大多喜らしく生活できる「まち」をつくります
分野別戦略2	「ひと」と「ひと」の輪の中で幸せを実感できる環境をつくります
分野別戦略3	魅力ある雇用と地域の活力維持に向けた「しごと」をつくります

## 総合戦略の理念

# 豊かさと誇りを次の世代へつなぐまち・大多喜



## 2. これまでの総合戦略における取組状況の評価・検証

本町では、第2期大多喜町総合戦略に基づき、人口減少の抑制と地域の活性化に取り組んできました。戦略においては、4つの基本目標と5つの成果指標を設定し、PDCAサイクルに基づく施策推進を図ってきました。

指標の達成状況は、下記の通りです。

基本目標		成果指標	当初値	目標値	実績値	
1	産業を活性化し、働く場を創る	本総合戦略に係る事業による雇用創出数 (令和3年度以降の累計)	—	60人 (R7)	26人 (R6)	
2	「住みたい」・「訪れたい」と思う魅力を創る	人口の社会増減	△64人 (H30)	△50人 (R7)	8人 (R6)	
		観光入込客数	91.2万人 (R元)	95.7万人 (R7)	100万人 (R6)	
3	結婚・出産・子育ての希望をかなえる	合計特殊出生率 (過去5か年平均)	1.11 (H27～ R元)	1.31 (R3～ R7)	0.84 (R元～ R5)	
4	安心な暮らしを守り続ける	65歳平均自立期間	男性	17.77年 (H28)	延伸 (R7)	17.77年 (R3)
			女性	21.59年 (H28)	延伸 (R7)	20.51年 (R3)

基本目標1「産業を活性化し、働く場を創る」については、成果指標の雇用創出数は令和6年(2024年)時点では未達となっているものの、一定の新たな雇用が生まれています。第3期総合戦略においては、第2期総合戦略の検証を行いながら、社会の潮流を踏まえ、さらなる雇用創出に取り組むことが求められます。

基本目標2「『住みたい』『訪れたい』と思う魅力を創る」については、人口の社会増減・観光入込客数ともに目標値を達成しています。しかしながら、特に若年層で人口流出が続いており、人口減少を食い止めるために、ターゲットを絞った転出抑制施策に取り組むことが求められます。

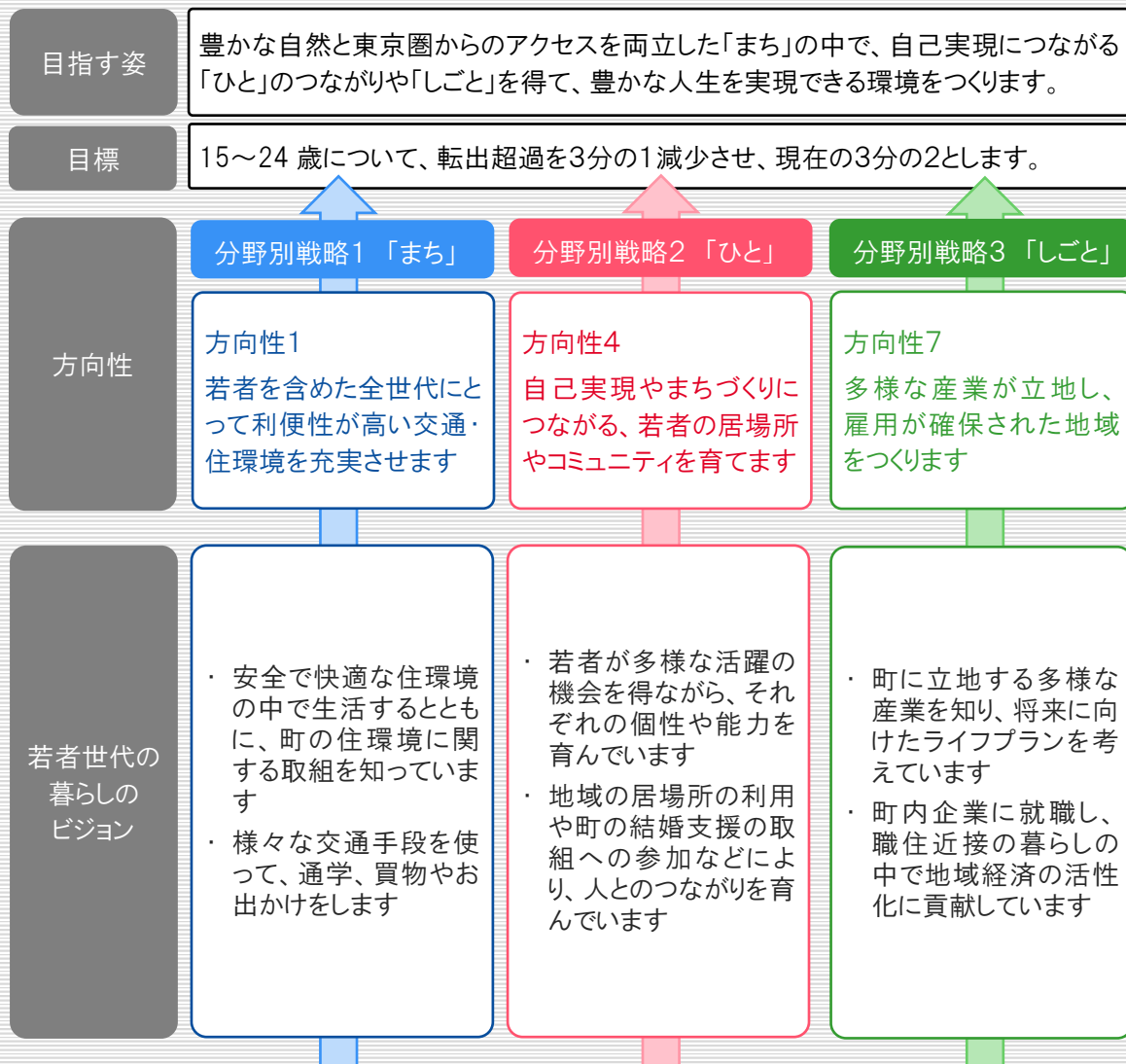
基本目標3「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」については、成果指標の合計特殊出生率が低下しています。しかし、0～4歳の年代における社会動態は転入超過となっており、今後は町内における出産の支援とともに、子育て世帯に選ばれる支援・教育の環境づくりなど、ライフスタイルの変化を捉えながら幅広い視点から対策を進める必要があります。

基本目標4「安心な暮らしを守り続ける」の成果指標である65歳平均自立期間については、男性では横ばい、女性では減少しています。今後、高齢者等に対する現役世代の比率がさらに低下していくと見込まれる中で、支援の担い手・受け手という立場に分かれることなく、共に支え合う地域共生社会を実現することが求められます。

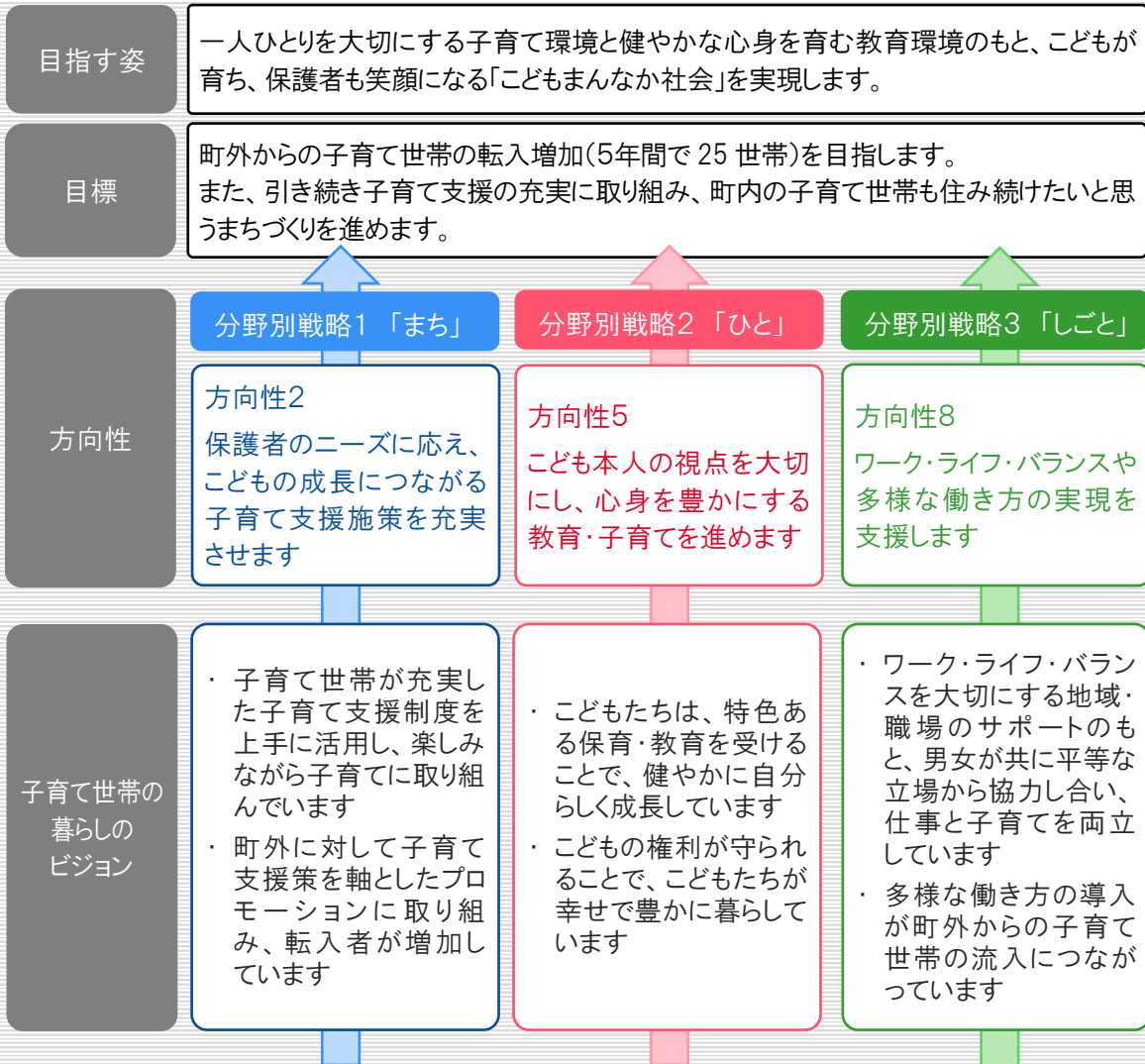
### 3. バックキャストイング(未来志向)によるターゲット別にみた総合戦略の方向性

第2次大多喜町人口ビジョンにおいては、人口減少を緩やかにしつつまちの活力を将来にわたって維持していくために、「若者（進学・就職）世代」「子育て世帯」「ミドル・シニア世代」のそれぞれに対して転入促進・転出抑制の目標値を掲げています。これらの達成を目標（ゴール）として、必要な取組を逆算して導き出す「**バックキャストイング(未来志向)**」の考え方により、本戦略を立案します。

#### ターゲット(1) 若者(進学・就職)世代



ターゲット(2) 子育て世帯



ターゲット(3) ミドル・シニア世代

